KSKS 花の会ニュース

２０２４年１月号
no.199

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB　https://hananokai.info/　★E-mail　hana-net@minos.ocn.ne.jp

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２-２　東興ビル４階　定価１００円

２０２４年能登半島地震について

2024 年１月１日の能登半島地震・津波で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

「40年」

年末のＴＶドキュメントで森崎和江氏が取り上げられ、正月、森崎さんの著作に浸っています。既に亡くなっておられますが、中島岳志氏との共著「日本断層論」（2011 ＮＨＫ出版）で彼女の歩みが振り返られる。学生時代に「第三の性」を読んで以来、読み続けています。興味のある方は一度、彼女の本を手に取ってみてください。

森崎氏は、人生の原点を植民地朝鮮に生まれたこと、弟の死、性に常に立ち返り、その後の著述活動を進めている。花の会が40年を迎える中、関わってきた私個人のこだわりは何なのか振り返る。学生・運動・1年の臨時教師から、一般企業に５年、共同購入運動に５年、そして花の会に38年。生まれ育った生野区という地域性に育まれた感性を疑問形として持ち続けながら、在日韓国朝鮮人の指紋押捺拒否運動の中に私の原点があるのかと感じている。

多くのスタッフがたまたま、仕事場として花の会を選んでいるように、私も無認可時代の花の会に横山泰彦氏を通じてお世話になった。40年が歴史となるかどうかは不明だが、単なる時間の経過でなく、何を求め続けているのか、個人としても花の会としても明確ではない。共に生きるという理念の本当の意味は何なのか、今一度というより、常に問い続けるものとなった。

創めは地域の働く場づくりや所得の保障を目指した。そして、入所施設と同じで出口のない作業所が本当の生きる場なのか疑問に感じつつ、社会経験、一般就労、生活の場、一時避難の場、余暇の楽しみ方、児童の支援そしてそれを決める当事者の主体の形成とサポートの在り方、相談場所、権利擁護の在り方、地域のコンセンサスを課題として、「共に」を追求してきた。今、メンバー・ご家族の加齢にどう対応するか一刻も時間がない中、障害の理解、周辺科学・医療に学びつつ、地域の中に溶け込む手立てや共にすすめるスタッフの在り様。テキストや厚労省の通知に出てこない世界が必要なことがわかりつつも、現実の支援の場の課題・現実に戸惑うばかりのこの頃です。

（やまだのかかし）

江口　勝子さん　～ 私の大切にしてきたこと ～

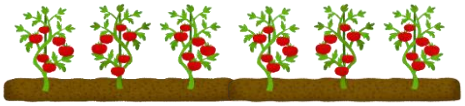
江口　勝子さんのプロフィール

- 江口元起さんのお母様。
- 昨年度まで、法人の評議員・花の会後援会役員を務められる。

＜江口元起さん＞53歳　男性

- 共働舎花の会（日中活動）、さくら（グループホーム）のメンバー。
- 5歳の頃高槻市に転居。地元の幼稚園、小・中学校を卒業後、就職（2年9か月）。
- 福祉センターのデイサービスを利用後、1991年福祉作業所「ワークたんぽぽ」に参加。1998年から「共働舎花の会」へ。2003年グループホーム「さくら」入居。

江口　元起さん



ご家族へのインタビュー、今回は江口勝子様にお話をお聞きしました。

Q 今までで、一番心に残っていることはどんなことでしょうか？

江口： やっぱり、「花の会」のことです。元起がワークたんぽぽに入って、親も畑に行ったり、バザーの値付けをしたりね。私も初めてのことで、先輩のお母さん達に教えられながら、「あー、こんな風にやるのか」と思いながら、一生懸命だった。でも、不思議と“しんどい”と思った記憶はない。苦痛ではなかった。

Q どれくらいの頻度で畑の手伝いに行っておられたのですか？

江口： 月に2回、約1時間だったかな？行けないときは協力金（1,000 円/回）を払っていた。バザーも文化住宅やワークたんぽぽで値付けして、秋、11月中旬公園でバザーして。お父さんたちも来てくれてね。バザーが終わったら、寒いなか「カンパーイ」って打ち上げをして。

Q 福祉作業所の時代ですね。法人設立に向けても、いろいろな取り組みをされてきましたよね？

江口： JR高槻駅のところで、街頭募金。暑い季節だと、終わったら山田さん（現理事長）がみんなにジュースを配ってくれました。「募金の額より、ジュース代の方が高いがな」と思ったりね。

Q 江口さんが元起さんを育てるなかで、大切にされてきたことは何ですか？

江口： 高槻に引っ越してきたときに、高槻自閉症児を守る親の会があるよ、と紹介されて、その定例会に月1回、勉強だと思って行っていた。どう子育てしたらいいのかわからないから、先輩のお母さんたちの話が参考になった。そのときに「親子関係、兄弟関係をつけておかないと後で困る」と聞いたから、そのことをずっと大事にしてきた。私から元起に

「こうしてほしい」っていうことも言うけど、元起の「無理難題ちゃうか？」ということにもつきあってきた。今、癇癪を起こしても、絶対に私や(元起さんの)お姉ちゃんには向かってこない。「ああ、このことやったのかな」と思う。癇癪はなおらないけれど。

Q ここ数年で、元起さんは変わってこられているように思いますが？

江口：この子も歳いったのかな。でも、何でも素直に「ハイハイ」って返事されるのも違う気がするし。怒るのには、本人なりの理由がある。本人が言えないだけで。そのへんのところをわかってほしい。親は50年育ててきたからわかることがある。他のメンバーも一緒にいるなか、ワーカーさんに、2～3年の付き合いで「(元起さんの言いたいことを)わかってほしい」というのも申し訳ないと思うから、私のできる範囲で伝えてきたつもり。ワーカーさんは頑張っている、(班で)10人以上のメンバー相手にね。

Q 今まで、いろいろな場面で助けていただきながら(時には共働舎花の会にバイクで駆けつけてもらいながら)、やってきました。ありがとうございます。

これからのことは、どのように考えておられますか？

江口：11月から週末もグループホームに泊まるようになって。スムーズにいかなかったら私もしんどいけど、本人に聞いたら「泊まる」と言ってくれた。世話人さんも「何食べたい？」とか聞きながら上手に関わってくれて、安心して任すことができた。お正月も、年明けの3日から8日までホームに泊まることができた。私が倒れたら、お姉ちゃんに掛かっていくから。

Q 少しずつ子離れですね？

江口：元起は、家に私がいなかったり用事があると、お姉ちゃんのところに一人で行っている。姉が嫌やったら行かないと思う。休みの日の昼間は、お姉ちゃんの携帯(元起さん専用：歌やCMが入っている)を借りに行ってそれを聞いて、日曜日には返すようにして。やっぱり、「親子関係、兄弟関係」を大切にしてきたからやと思う。

昔は制度もなかったから、休みの日はいろいろな所に連れて行った。夏は万博やひらかたパークのプール、冬はスケート、長居公園にもよく行った。長い日曜日、親もそれで気が紛れていた部分もあると思う。今やったらガイドさんに「お願いします」ってなるんでしょう。

中学3年生の時、担当の先生の案でうどん配達(うどんやヨーグルトを先生方に注文してもらって、注文先に届ける)を、4～5人で始めた(今は元起さんだけ)。先生方も退職されて、(江口さんの)お友達に声をかけて続けてこられた。今も、月に1回午後から配達に行っているけれど、自分の歳のこともあるし、少しずつ(回数を)減らしていこうと思っている。それも、元起と話し合って「1月はパスね」って伝えながら。どっかでケリをつけなあかんし。中学3年から、よう続いたなあ…と思ってます。

インタビューを終えて

共働舎花の会では、農作業や給食の片付けなど「やる！」と言って積極的にこなされる元起さん。食後は他のメンバーの分までコーヒーを入れてくれます。そして、お母さんのことが大好きです！

最近、自転車での自力通所から、送迎車利用に切り替えました。これについても、ご家族なりの葛藤があってのことだと思います。

今回お話を伺って、改めて花の会の初期を支えてくださったご家族の熱い想い、元起さんに対する強い愛情を感じました。私たちも、元起さんとの“関係”、そして、周りの方との“関係”を大切にしていきたいと思います。

（取材：山口　由美子）

深澤　瞳さん

「これまでと」「これからの準備の戸惑い」

深澤　瞳さんのプロフィール

- Tさん(あさがおクラブ利用)とTさんのお姉さん(社会人)の2児の母。
- 平日は、パート勤め。地元は、和歌山県。
- Tさんは 2013 年からあじさいクラブを利用していて、現在はあさがおクラブを利用しています。3月で高等部卒業と同時にあさがおクラブも卒業となります。

今回は深澤瞳さんにお聞きしました。

Q Tさんの幼少期は、どんな感じだったのですか？

深澤：1歳半まで首もすわらなかったので、病院通いをしていました。4歳までは歩けなくて、病院では「歩けないよ」と言われましたが、療育園に通い、歩けるようになりました。今では走っています。幼稚園、小学校は地域の学校へ行き、中学から高槻支援学校へ通うようになりました。

Q 放課後等デイサービスの事業所を利用するきっかけは？

深澤：小学校の支援級のご家族に聞いて、花の会のあじさいクラブを紹介してもらいました。それまでは全く知りませんでした。見学に行き、自由な感じが良く、家からも近い方が良かったので決めました。利用当初は、現在と違っていろんな特色を持った事業所も少なくまた数も少なかったと記憶しています。

Q 子育てで悩んだことや悩みをどのように乗り越えていったのですか？

深澤：幼稚園や小学校は先生やお友達に恵まれていました。また、小学校の6年間学校の送り迎えをしていましたので、その時に同じように送り迎えしているご家族と話すことができました。私の中学校時代の同級生の子と、うちの子が一日違いで生まれて、偶然お互いの子どもに障害があり、すごく身近に同じ境遇の友達(親友)がいたので、愚痴を言い合ったり、話をすることができていました。

Q ご家族の協力は？

深澤：お姉ちゃんは、Tと二人で出掛けたり、お友達に紹介して一緒に遊びに連れて行ってくれるなどしてくれていて、Tの将来のことをいろいろ考えてくれています。また主人は休みの日にTと遊んでくれたり、私が友達と出掛けたりすることにも理解があって、私が息抜きをすることができています。家族でTの将来のことについて話をすることもよくあり、共に考えています。

Q 10年利用されてどうでしたか？

深澤：自由な感じが良かったです。T には合っていたと思います。放課後にお友達と会える、遊べる場となっていて、お友達や職員との関わりを楽しめていました。日常の一部になっていたと思います。

「卒業に向けての準備と戸惑い」
「１８歳問題（通称）」

戸惑い①ーー

卒業後の進路として、生活介護の事業所にするか就労系の事業所にするかの選択肢があるが通う手段が違う。

深澤：生活介護は送迎をしてくれますが、就労系は自力で行くのが前提となりますので、バスや電車など一人で乗って行動できないと難しいですね。選択肢はあっても実際は、生活介護一択になってしまいますね。

戸惑い②ーー

放課後等デイサービスと生活介護事業所では、帰宅の時間が違う。

深澤：放課後等デイサービスでは、18時前に送って来てくれて帰宅となりますが、生活介護事業所は早ければ15時半や16時頃には帰ってくると聞いています。今の仕事を辞めて、帰宅時間までに帰れる仕事を探すことも考えないといけないかなとも思いますが、しばらくは家族の協力を得ながら頑張っていこうと考えています。

戸惑い③ーー

在学中に体験実習に行く機会が少ない。

深澤：支援学校では、保護者は数か所見学に行くことができますが、本人が実習に行くのは高2と高3で1回ずつです。他の事業所も子どもに見せたい時は、個人での段取りが必要になります。

戸惑い④ーー

情報が少なく、教えてもらえる機会も少ない。

深澤：放課後等デイサービスとは制度が違い、知らないことがいっぱいあります。支援区分や医師の診断書などが必要なことも、早く知っておきたかったですね。

戸惑い⑤ーー

事業所によって募集人数が、あまり多くはない。

深澤：それぞれの事業所の募集人数が1名ぐらいしかなく（その年にもよるとは思いますが）、行きたくても他の人で埋まってしまう場合もあります。

＊　＊　＊　＊　＊

Ｔさんと山口との思い出のひとコマ

Ｔさんとは、しっかりと関係が築けるまでに半年かかりましたが、今では「緑」をテーマにやり取りを重ねています。学校で修学旅行に行った際に、緑のお菓子をおみやげに買ってきてくれたことは、とても嬉しく思い出に残っています😄

編　集　後　記

児童の制度が2012年に変わり新たに始まった中で、事業所数も少なく、活動も手探り状態の中で、最初の世代として、今の放課後等デイサービスの基礎を共に築いていただいたのではないかと思います。

この春の卒業に向けていろいろご苦労（18歳問題）があったとお聞きしたので、是非、これからの方々に知っていただき参考にと、今回お話のお願いをしました。

（あさがおクラブ　山口　昌亮）

加藤　章子さん　　職員の声・支援への思い

加藤　章子 さんのプロフィール

- 2019年、放課後等デイサービス（以下、「放デイ」と表記します。）あじさいクラブに入職。その後すぐに同じく放デイのあさがおクラブの立ち上げスタッフとして配属。
- あさがおクラブで勤務しながら、花の会ガイドヘルパー養成研修を受講し、ガイドヘルパーも兼務されてきました。

2023年度からはサポートセンターはいびすかすに異動、現在は常勤職員（サービス提供責任者）としてヘルパー業務や管理業務でも活躍されています。

今回は、そんな加藤さんにお話を伺いました。

Q ガイドと管理業務両方だと、お休みも不定期になるのではないでしょうか。仕事はお忙しいですか？

加藤：いやいや(笑)、お休みありますよ。確かに丸一日のお休みはあんまりないんですが、日によっては早く帰らせてもらったり、夕方のガイドだけの日があったりとかで時間の調整をしてる感じです。私としては、平日の午前中がお休みだったりで、むしろありがたい時もあるんですけどね。

Q うーん。とはいえ、休みが少ないのはハードですね…。それはやっぱり、それくらいたくさんご依頼が入っているからですか？

加藤：そうですね。問い合わせの件数が多いのもあるんですけど、場所とか時間の条件によっては行けるヘルパーがいない場合も多いんです。そうなると、お願いした人は困るやろうな、と思って…。そういう時、自分が動ける時は「行きますよ」って言っちゃいますね。

Q 花の会歴はどれくらいですか。

加藤：それね、ちゃんと確認しようと思ってたんですけど忘れてきちゃって(笑)。でも、初めて放デイに入ってから、5年くらいになるのかな。

もともと放デイで働きたくって、求人を見ていたら、あじさいクラブが募集してたんです。「家からめっちゃ近い！」と思って、すぐ応募して、運よく採用してもらえました。

その後すぐにあさがおクラブが開所して、私はそっちの配属になって…。

パート職員として入ったんですけど、実は家庭の事情があって、シフトの固定が難しかったんです。週2日くらいで働いてる時期もあれば、週5日入れてもらう時期もあったりして…、シフトの日数に関しては、結構勝手を聞いてもらっていました。あさがおクラブには感謝しかないです。

それで、あさがおクラブで働いている時に中川さんに、「花の会でガイドヘルパーの講習もやってるよ～」って教えてもらって。ちょうどコロナが流行りだす前の、最後の講習に参加させてもらえたんです。

だからその間は放デイも休ませてもらって…、そこからあさがおクラブで働きながら、ガイドヘルパーも始めたんです。

Q ガイドヘルパーにも興味を持たれていたのは、きっかけがあったんですか？

加藤：あじさいクラブで働きだす前なんですけど、福祉系の大学の授業を受ける機会があったんです。その授業の中で、先生が「ガイドヘルパーとか、放デイとかのバイトを大学生のうちにやってたらいいよ」っていう話を学生さん向けにされてたんですよね。

そこで福祉関係の仕事もいろいろあるんだということを初めて知りました。

で、大学生でもバイトできるということは、私でもできるのでは…と思ってたら、花の会に縁があって、両方経験できたのは良かったです。

Q 仕事をしていて、大変だなと思うのはどんな時ですか？

加藤： やっぱり声掛けとかがうまくいかなくて、メンバーが動けなくなってしまう時は大変ですね。ガイドの時間も決まっているので…難しいです。いつもそれにドキドキしながら、今日はうまくいくかな…と思いながらやってます。

一緒に楽しんでもらえるのが一番いいし、良かったって思えるんですけど…、やっぱりメンバー自身の気持ちもありますし、そういう日ばっかりではないですね。

Q そうなってしまった時の対処法みたいなのはありますか。

加藤： 人によるんですけど、例えば全然知らない人に「がんばって！」とか声掛けしてもらったりしたら、気分が変わって「がんばる！」って言ってくれた時とかありましたよ。

いろんな人に助けてもらってます。おうちの人に電話して、声掛けしてもらったりとか。

あとは、メンバーが動けず座り込んでしまっていたら、「車いす持ってきましょうか！？」って言ってくれる人がいたり。

バスに乗りたいんだけど、動けなくなってしまって何台も見送っている時に、全然知らない人が「私も乗るから一緒に乗る？」って言ってくれたりとか。そういう風に言ってもらったら、メンバーもすっと立ち上がって乗ってくれたりするんですよ。そういう時は「ありがとうございます…！」って思いますね。

周りの人に助けてもらって何とかなったことは、何回もあります。

Q 楽しいなと思うのはどんな時ですか？

加藤： ガイド中、メンバーが笑顔で過ごしてくださる時ですね。

お別れまで笑顔で手を振ってくださると、楽しく終われたなと思ってほっとします。なかなかコントロールできることではないですけど、そういう風に終われるようにがんばりたいなと、いつも思っています。

ベテランの人のガイドに後ろからついて行って勉強してみたいです。ずっと自分のやり方だけしか分からないから、ほんと難しいです。

Q 趣味とか、ストレス発散の方法ってありますか。

加藤： ストレス発散は、お友達としゃべることです。だんだん家のこととお仕事の両立もできてきて、友達と会う約束をして、おしゃべりして…っていう時間も取れてるんです。

趣味は、月1回くらいで空手の教室に通ってるんですよ。知り合いに空手の先生がいるんですけど、その先生が「空手マダムの会」っていうのを立ち上げて、私も一員なんです（笑）。

あとね、お習字もやってます。字にずっとコンプレックスがあったんですけど、ある日テレビを見ていたら、書道カフェっていうのを見かけて。「すてき…！」って思って、そこに通ってます。こっちも月1回くらいなんですけどね。

集中してそのことだけに取り組む、みたいな時間は大事やなって思います。今の働き方はそういう時間も取れるから、自分にとっては合ってるなと思ってます。

Q 最後に、支援で大切にしていることを教えてください。

加藤： 自分がしてもらったらどうかな、っていうのをいつも考えるんですけど、不安そうやったり、しんどそうな人とお出かけするのって、自分もしんどいやろなって思うんです。

だから、自分がまず楽しむ、っていうのは大切にしたいです。自分が楽しく支援させてもらっていたら、メンバーにも楽しんでもらえるんじゃないかなと思っています。いつもできてるとは言えないんですけど…。しんどい時ももちろんあるけど、しんどい・疲れた…だけで終わるんじゃなくて、仕事もプライベートも、「でも楽しかったよね」と思えるように過ごせたらいいな。

編　集　後　記

お話を伺っていて、仕事でも趣味でも「興味ある！やってみよう！」という加藤さんの行動力にめちゃくちゃパワーをもらえました。

同じように、メンバーにも「一緒に楽しみたい」という気持ちが伝わっているんじゃないかなと感じます。

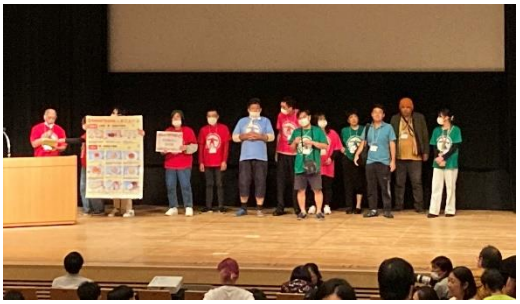
加藤さんの気持ちや雰囲気が共有できたように感じて、とても楽しいインタビューでした。

（取材：田淵　彩子）

日中活動支援の報告　生活介護

『ピープルファースト全国大会 in 大阪』 に行ってきました！

10月13日(金)、ピープルファースト全国大会 in 大阪に参加しました。今回は大阪での開催ということもあり、メンバー、ワーカーともに当事者活動について学ぶため、日中活動全体での参加でした。大会のテーマは「入所施設をなくそう！差別・虐待をゆるさない！世界や新しい仲間と繋がろう！」でした。海外のゲストを交え、脱入所施設について、やまゆり園の事件や、旧優生保護法、あすなろ福祉会についての話を聞きました。他にも1分間スピーチや、休憩の際は生演奏で歌って踊って、とても充実した1日になりました。1分間スピーチでは第4共働舎花の会の小沼さんが、自分の今の暮らし、頑張っていること、はなみずきのパン・菓子のことを発表しました。



私はオンラインでの全国大会への参加はありましたが、実際に会場に行って参加するのは初めてでした。当事者の生の声を聞き、それを聞いた当事者の反応を見られたことがとても良かったです。辛い出来事や事件の内容の時は悲しい表情や怒りの表現をしている方がいました。内容が難しく、どれだけメンバーに伝わるのか不安でしたが、そういった反応を見ると、メンバーなりに感じていることがあるのだと実感しました。このような体験をその場で終わらせるのではなく、持ち帰って何かに活かしたいと思いました。

＊　＊　＊　＊　＊

メンバーに班会議やリーダー会議で、ピープルファーストでの内容を振り返りながら、感想や今後どのように活かしていきたいかを聞きました。感想は、「バスに乗って楽しかった」「入所施設に入りたくない」「GH がいい」「やまゆり園の犯人の言った言葉〝障害者は生きる価値がない〟は酷すぎる！おかしい！」等がありました。

今後は、「入所施設についての映画の上映会をしたい」「一から勉強をする」「来年も参加する」等の意見がありました。その中で、「自分達のことをアピールする場を作る」という意見も出たので、それを実現できるよう、どう活動したら良いかメンバーと考えています。　（第2共働舎花の会　奥村　真奈）

『第５４回　花の会バザー』　を開催しました！

コロナ禍で規模を縮小し、ミニバザーを行ってきましたが、コロナが5類に移行されたということもあり、コロナ前のような大きなバザーを昨年11月12日(日)に開催することができました。当日は550人程度のご来場がありました。ありがとうございました！！

今回は4年ぶりの開催で大規模なバザーを開催するのが久しぶりすぎて、家族もワーカーも頑張って準備をしました(笑)。当日は、就労、児童やグループホームのワーカー、ボランティアの方(高槻市ボランティアセンター11名・笑みの会1名・大阪医専3名・阿武野高校ボランティア部3名・地域のボランティア2名)にも協力をいただき、無事に開催することができました。コロナ禍でリサイクルショップでの買取や物流が活性化したこともあり、商品が以前に比べて薄くなっている気がして心配されましたが、売り上げは1,212,028円でした。

今後もバザーを地域の方とのつながりの一部と考え、お客さまに楽しんでご来場いただけるよう試行錯誤していきたいと考えています。物品のご提供もいつでもお待ちしています！よろしくお願いいたします。　（第2共働舎花の会　渡邊　朋幸）

児童通所支援の報告

児童部門開設１０周年を迎えました
～これまでを振り返ってみました～

おかげさまで 10 周年

2023年は、「創立40周年」「社会福祉法人創立25周年」と、花の会では節目の年になっていますが、偶然にも児童部門が花の会でスタートしたのは、2013年4月のことで、今年10周年を迎えることになりました。暗中模索の中、皆様に支えていただき、今日まで事業を継続することができました。少し児童部門の歩みを振り返りたいと思います。

2012年4月、児童支援の強化として、身近な地域での支援の充実と、年齢や障害特性に応じた専門的な支援が提供されることを目的に、それまで障害福祉サービスの「児童デイサービス」としてあったものを廃止し、サービス体系が再編され児童福祉法（市町村）の下で、障害児通所支援として、子育て総合支援センターにて所管されることになりました。最初の事業所「あじさいクラブ（郡家新町）」は、前述のように2013年4月に開設しました。当時は今に比べて受給者証の発行数は少なく、静かな船出となりました。その後制度が浸透する中、登録者は増え続け、2015年3月「さくらクラブ（大冠町）」開所、2019年9月「あさがおクラブ（南平台）」開所、3事業所体制になり現在に至ります。

行政の定める「事業内容」として指導、適応訓練、生活能力の向上という言葉が並んでいることから、国の進める発達促進は訓練による能力向上を目指し、社会に適応し（それぞれに応じた）自立を目的とすると、読み解けます。花の会の児童部門では能力向上に軸足を置くのではなく、楽しみ（遊び、食事・おやつ作り）、さまざまな経験の中からの成長を喜び、関係発達（大人も子どもも育ち合う、学び合うこと）を意識し、日々悩み取り組んできました。私達は先生ではありません。「問題行動」と言われる行動を修正する力はありませんが、問題行動を「生きにくさ、悩みの表現」として受け止め一緒に考えることはできます。一緒に過ごす子ども達は当然のことながら、関係するすべての人と、笑い泣き悲しみ喜びを分かち合う仲間のような存在でいられるよう、今後も考えていきたいと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。

（さくらクラブ　平田　昌史）

『第２回野外交流会』を開催！

児童部門の一大イベント！　第2回野外交流会が2023年10月21日（土）に花の会の敷地内で開催されました。コロナの影響もあり第1回目の開催から3年と間があいてしまいましたが、久しぶりの3事業所合同で、子ども（40人）、家族（50人）、職員（21人）と総勢111名で、当日はカレー作りやゲーム、ビンゴで楽しみました。会場では、でき上がったカレーを何杯もお代わりしている子や、玉入れゲームで走り回ったり、ステージの上に乗って歌やダンスをして盛り上がっていたりと、子ども達の歓声がこだましていました。この企画は、子ども達や家族、職員が交流を目的としていて、日頃会うことがほとんどない家族同士の交流の場ともなっていました。また職員も、児童の職員だけでは大変だったので、日中（生活介護）の職員にも協力してもらい、児童の活動を知ってもらえたのは良かったなと感じています。

次回は、キャンプ場!?・・・。

（あさがおクラブ　山口　昌亮）

地域生活支援の報告

グループホーム梶原（仮称）の開所に向けて

グループホーム梶原（仮称）（以下：「GH梶原」）の建設が始まっています。GH梶原の近隣は国道171号線に近く、阪急上牧駅に近く、目の前には阪急電車、JR、新幹線が走っています。周辺では第2名神高速道路も建設が進んでいます。

今回建設しているGH梶原は木造2階建てです。図面は設計丸甲に依頼しました。10月に入札で決まった千里ハウジング（大和にあるひなげし、でいじーも施工していただきました）による工事が着工し、現在は棟上げを終え、電気の配線の配置やベランダの防水処理等、着々と完成に向けて工事が進められています。木造ではありますが、写真1のように金属で補強しており、振動にも強くなっています。新幹線や電車が通り過ぎても気にならないくらいでした。外観は写真のパースのようにモダンですが、建物内はバリアフリーで、介護にも対応できるホームになっています。

GH梶原は男性棟と女性棟に分かれており、男性ホームは4室あります。グループホームに興味があるけれど、どんなところなのか泊まってみたい人、体験したい人にはぜひ利用していただきたいと思います（ぽんに併設のエールと、ぽこに併設のジョイフルも同様にグループホーム体験を兼ねた短期入所の利用ができます）。女性棟には1階と2階それぞれに4室あり、女性8名が利用できます。男性棟の1階には避難スペースがあり、災害時や感染者の受け入れ等、これまでぽこの1階で対応できたことが、こちらでも可能になります。できれば、メンバーや地域の方たちとの交流など楽しめることに有効活用したいと思います。

今後の予定ですが、3月末までに入居者を決定し、4月中旬には引き渡し、その後荷物の受け入れを行います。6月3日（月）に開所の予定です。まだ先にはなりますが、メンバー達が活き活きと生活できるグループホームになればと思います。

（フラワーホーム　徳野　裕季）

外　観

写 真 1

写 真 2

写 真 3

レスパイトをご利用の皆様へ

花の会短期入所事業部（通称：レスパイト）は、ここ数年、スタッフ不足から利用をお断りすることが続いて、関係者の皆さんにご迷惑をおかけしました。昨年の後半からようやくスタッフが充足し、利用者を受け入れる体制が整ってきました。現在はフル稼働の一歩手前くらいの状態です。特に女性のスタッフが揃ったことで、お断りをしていた女性メンバーの受け入れができるようになっています。

おかげさまで多数お申し込みをいただき、定員いっぱいの日も多くなっていますがまだ若干の空きがありますので、ショートステイのご利用をお考えの方は是非お声掛けください！ レスパイトに直接ご連絡いただいても結構ですし、所属の事業所を通じてでも構いません。なおショートステイのご利用は月～金で、原則土日は閉所ですが、冠婚葬祭やご家族の入院など、緊急時には土日でも受け入れ可能な場合がありますので、お困りの際はまずはご相談ください。（072-697-7031花の会短期入所事業部レスパイト）

さて、そんな最近の状況ですが、昨年末あたりから体調不良によるキャンセルが増えてきています。その場合、キャンセル待ちの方にお声掛けをさせていただきますが、長らくお断りをしていたこともあって、情報が十分にお伝えできていないかと思います。今後は各事業所を通じてキャンセルの情報もお伝えさせていただければと考えています。

そんな中、年が明けてすぐに職員数名がインフルエンザに罹ってしまい、一部の方にキャンセルをお願いするなどご迷惑をおかけすることになりました。この場を借りてお詫び申し上げます。

元旦の能登地震から始まった2024年は、レスパイトにとっても波乱含みか？と思いつつ、やはり元気が一番!! と気合いを入れなおして一同頑張ってまいります。これからもよろしくお願いいたします。

（花の会短期入所事業部　橋本　好司）

就労相談支援の報告

～　『就労継続支援Ｂ型』事業所 を３月に立ち上げます　～

就労支援センターフォルツァは、地域に密着した精神障害・知的障害・発達障害等のある方々の就労移行支援事業所として、就労に関する支援を手掛けてきました。

この度、2024年３月に「就労継続支援B型事業所」を立ち上げることになりました。B型の事業所では、生産活動をしながら、緩やかに一般就労を目指すことができます。

支援のプログラムとしては、軽作業を中心としながら、就労に向けた生活力の向上と、就職が叶わなかった方へのフォローを行います。具体的には、仕事をする中で迷った時や悩んだ時に立ち返る場として、就労を希望する一人ひとりの「働く力」を育み、就職に繋げることを目指します。

今後も、利用者の方々が継続して就労できるように、地域でのネットワークを拡大し、利用者に満足していただける支援の充実を図り、就労実績の向上に努め、地域の中で選ばれる事業所を目指していきます。

見学・体験を随時受け付けていますので、お気軽にご連絡ください。

（就労支援センターフォルツァ　河野　一生）

就労支援センターフォルツァ
TEL：072−670−2450

フォルツァの QR コードです　↓

ブ　ロ　グ　　Instagram

利用者ブログ

「こども食堂祭　in　本照寺」 を開催しました

富田商店街の秋祭り「とくとく感謝祭」が10月15日に開催され、今回はそのお祭りとの共催イベントとして「子ども食堂祭」を開催しました。このイベントは、子ども食堂事業に興味を持っていただいている事業所の方々に、共生型子ども食堂の1日模擬体験をしていただける場と、地域の方々には子ども食堂を楽しんでもらう中で、福祉の取り組みや福祉事業についての理解を深めていただける場として企画したものです。

前日に大雨が降り、開催が危ぶまれましたが、当日は好天に恵まれました。子育て支援タイムでは、BBQコンロで「餃子の皮ピザ」「ワッフル」を焼いて提供しました。地域の小学生や大人、たくさんの方々が遊びに来られ、「安くて美味しい」と好評でした。また、本照寺のブースでは、お寺の本堂で富田ジャズストリートの方が企画したジャズの演奏も行っており、お寺全体に音楽や子ども達の歓声で、楽しい空気に包まれました。

子育て支援タイムは、富田団地に事業所があり、普段は毎週火曜日、金曜日の10時～12時の間に、子どもとその保護者のための居場所活動と、毎月最終月曜日の16時から子ども食堂を行っています。今度は、事業所の方にも遊びに来ていただけたら嬉しいです。

（子育て支援タイム食堂　湯之上　秀子）

法人の報告

職員研修　次の10年を担う人材育成

昨年10月末に全職員対象の研修を行いました。前半はエピソード記述、後半は虐待防止をテーマに、職員全体研修を開催しました。エピソード記述の研修では、第4共働舎花の会の職員がメンバーとの関わりの中で心を動かされたエピソードを発表し、そのエピソードについてグループで意見交換をしました。虐待防止研修では、実際にグループホームで起こった事例を元に虐待の発生要因やどうすれば虐待を防げたのかなど、意見交換をしました。どちらもメンバーと職員との具体的な関わりから生じる出来事であり、参加者自身の経験と紐づき活発な意見交換とたくさんの気付きが得られました。

また、階層別研修を順次開催しています。各等級に求められる活躍を期待して、「支援と専門性」について意見交換したり、プレゼンテーションの演習をしたりと、なるべく参加型、アウトプットができる内容で企画しています。

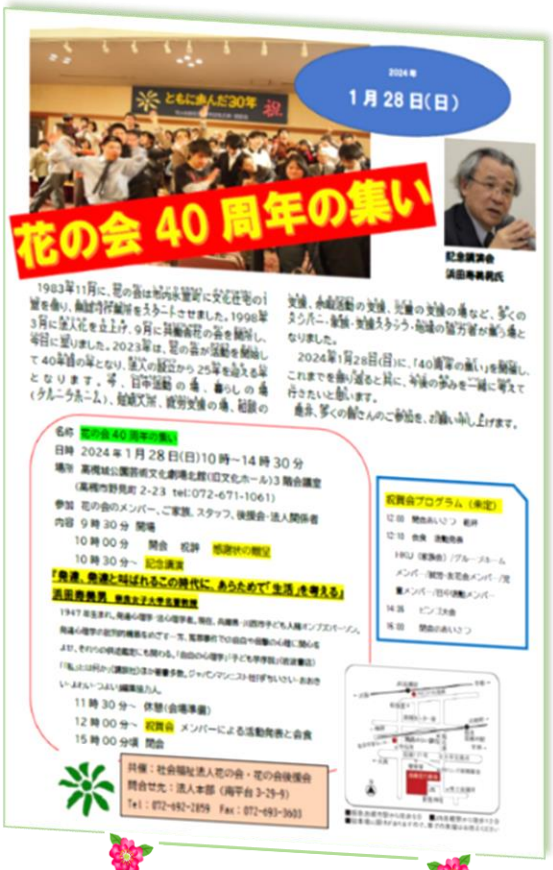
各事業所で実施している研修に法人全体の研修を重ねることで、幅広い知識と考え方ができるようになってほしいと願っています。

（業務執行理事　成瀬　修）

花の会40周年記念誌 が完成しました

前号では40周年記念パンフレットの完成を報告しましたが、今回は記念誌が完成しました。主な内容は、30周年の記念誌でまとめた活動以降の各事業の10年のあゆみと、いま、花の会の活動を支えている職員からのメッセージ、今年度から活動を開始した新花の会後援会の紹介になっています。企画段階から職員が参加し、短い準備期間でしたが、たくさんの想いが詰め込まれた記念誌に仕上がりました（頒価500円）。

また、急なお願いにもかかわらず、関係者の皆さまには、心温まる祝辞を賜り、誠にありがとうございました。次の10年の活動が、皆さまのご期待に沿えるよう精進してまいります。



1月28日(日)
花の会40周年の集いを開催

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円